

ノーリツ鋼機が協力

和生らの活動に賛同 台風被災地の写真修復



編集ソフトの使い方の指導を受ける学生

台風12号の被害で傷んだ写真を修復しようと活動している、和歌山大学の学生らでつくる被災地支援団体「FORWARD」(太田昇代表は、活動に賛同したノーリツ鋼機㈱(本社〓和歌山市梅原、西本博嗣社長)から業務用インクジェットプリンターやスキャナーなどの機器を借り、専用インクやペーパーの提供を受けた。メンバーらは写真を一日でも早く持ち主に返そうと取り組んでいる。

台風で水に漬かった結婚式、孫の写真なれを手作業で落としたり、泥が付くなど、思い出の写真をた後、スキャナーで読み取りパソコンにデータを保存。編集ソフトで汚れた部分を切り取ったり、色補正をするなどして目立たないように加工して、成人式や指導した。写真の加工し、印刷したもの

とデータを記録した記録のみで返しているが、紙に印刷して返せるようになった。

今までアルバムから一枚ずつ切り取っていた作業が省かれ、スキャンから印刷までの一連の作業がスムーズに行えるようになった。

和歌山大学経済学部2回生の小林典代さん(19)は「写真の持ち主には、機器を使えない人が多くいる。今までCDのた。でも多くの写真を助けた」と話している。